

きほくのまち人探訪

「継続は力なり 長年にわたりソフトテニスで活躍」



たなか つとむ
田中 勉さん

78歳を迎えた田中勉さんは、現役のソフトテニスの選手。毎年のように県大会や四国大会に出場し、四国大会では7回の優勝を誇ります。

最も輝かしい成績は、平成24年に沖縄県で開催された西日本大会シニアの部で準優勝したこと。「このときは、今までで1番調子が良く、気づいたときには、決勝まで勝ち上がっていた」と田中さんは振り返ります。

ソフトテニスを始めたのは、中学2年生のとき。先輩から一緒にペアを組もうと誘われたことがきっかけです。当時の競技人口は、今ほど多くなく、指導者もいなかったため、自分たちで

試行錯誤しながら、練習に取り組みました。

高校生のときには、定時制の県大会で3年連続の優勝を経験。これを機に、勝ち上がることの喜び、楽しさを感じ、どんどんソフトテニスに夢中になっていったそうです。

また、ソフトテニスを通じて、県内外にたくさんの友人ができた田中さん。その同世代の友人たちと「次の大会も頑張ろう」とお互いに鼓舞しながら、週に3～4日、練習に汗を流しています。「継続は力なり。元気である限り、ソフトテニスを続けていきたい」と、田中さんは笑顔で話していました。

ALTの鬼の里Diary ~Chrisdelle編~

「Soft snow, and Movies in New York」



今年は、雪がたくさん降りましたね。たくさんの雪を見ると故郷のニューヨークを思い出します。

私が子どもの頃、ニューヨークではたくさんの雪が降っていました。その雪で雪だるまをよく作ったものです。日本では馴染みがないと思いますが、アメリカでは3つの雪玉を使って雪だるまを作ることがあります。重要なのは、崩れてしまってもやり直すこと。「If at first you don't succeed, try, try again.」これは「最初はうまくいかなくても、もう一度やり直しましょう」という意味です。

ほかには、兄弟たちとスノーエンジェルもよく作りました。スノーエンジェルとは、雪の上に大の字に寝そべり、手足を動かすことによってできる天使型の跡のこと。寒さが身にしみませんが、柔らかい雪で遊ぶことはとても楽しかったです。

雪遊びの後は、家族と一緒に映画を見たり、ココアを飲んだりして温まりました。ときどき昔を思い出し、家族と一緒に映画を見るのが恋しくなりますが、そんなときは、「スパイダーマン」や「ペット」など、ニューヨークを舞台にした映画を見て楽しんでいます。

地域おこし協力隊活動日記

「悪戦苦闘しながら練習に励んでいます」

地域おこし協力隊1年目
あわの まさおみ
栗野 正臣



鬼北町に来て、初めての冬を迎えました。11月から急に冷え込みが強くなり、想像していたよりもはるかに冬の進みが早くて驚きました。また、寒くなるにつれて空気も澄んできて、山々の風景がよりくっきり見えるようになりました。川の水の透明度も上がり、鬼北の自然の魅力が際立ってきたという印象です。

私が所属している「泉貨紙保存会」では、紙漉きが本格的に始まりました。漉いた紙が板に貼りつけられ、外で干されている様子は、日本の原風景を連

想させ、感慨深いものがあります。

現在、和紙を漉く練習と並行して、用具の修繕なども行っています。その中には、とても繊細で時間のかかる作業もあり、悪戦苦闘している毎日です。紙漉きは寒い季節のみに行う期間限定の仕事なので、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

